

情報システム・バックアップオフィス研究会(ITBO 研) 2015年度 第10回 議事録

1. 開催概要

- 開催日 : 2016年2月9日(火) 16:30~18:30
- 開催場所 : BCAO 東京オフィス、大阪オフィス
- 進行役 : 大塚(座長)
- 議事録作成: 大塚(座長)
- 出席者数 : 8名(出席者名は末尾参照)
- 配布資料 : 「私家版 ITBO の 2 年間: 振り返りと今思う事」 伊藤副座長

2. 議事内容

(1) はじめに (報告: 大塚)

今回も前回に引き続き ITBO 研の 2 年間の活動総括を行う。前回は年初なので、おひとりずつ最近の出来事をご紹介いただいたので、今日今年初めて参加されたメンバーからも一言お願いしたい。

S 氏: 今日大阪は結構温かい、朝はにわか雨があった、例年並みの気温。やっと仕事が(SOX 外部監査)一段落した。今年度の組織統合に伴い、来年度は、SOX 監査受査体制変更、インフラ部門における BCP 体制の変更の対応が開始することが想定される。自分自身もそのプロジェクトメンバーとなる可能性が高く、仕事の範囲が拡大しそうだ。

N 氏: 関西地区支部や BCAO パンフレット WG 活動で多忙。ITBO 研で IoT をテーマとして議論しているが、当社でも今年は HEMS や電力系の分野での具体的な取組みが出てきそうである。ただしあまりに広範囲な活動なので把握しきれしていない。

(2) 連絡事項(報告: 大塚、伊藤副座長)

省略、2月研究会アジェンダを参照のこと。

3. 今月の ML の話題

MLで話題になったテーマについて振り返った。

●2016年のテクノロジートレンドを展望する

(N氏) 本年 IoT が世間の一部で本格的に立ち上がりそうである。IoT は将来の発展と同時に潜在リスクの大きさが注目されている。BCAO としても IoT への対策は大変注目である。

(Y氏) IoT デバイスからエッジサーバまでは近接 NW(有線/無線)としてのプロトコル、エッジサーバからサーバ(クラウド)までは The Internet という組合せを基本として、車やその他のモバイル/ウェアラブルのエッジサーバをどう定義し守るかがテーマである。

(O氏) エッジとデバイス間の独自プロトコルに関して海外ではすでに出てきている。例えばスマホとある機器間 BLE を使用するなど。我が国においてもこれに追従する形である。エッジから先インターネットをどうセキュアにするかが課題。ブロックチェーンを使えば書かれた内容は問題がない。そうすると HTTP が残された問題となる。HTTP は REST API ベースの単純なリクエスト・レスポンス型の構造。HTTP の従来のセキュリティリスク(不適切な認証、インジェクション攻撃、クロスサイトスクリプティング、クロスサイトリクエストフォージェ

りなど)を保持している。アプリケーションレイヤーでのセキュリティ対応が求められる。ネットワークのレイヤー単位のセキュリティもさることながら、今はアプリケーションまで含めたセキュリティ対策を考える必要がある。特にソーシャルエンジニアリング(人間)系が最も課題が大きいのではないか。

(I 氏)ネットワークのセキュリティはそれぞれ使用されるシーンによって全然違う。お金系、医療系、製造系、情報系... などなど。例えばペースメーカーとスマートメータとは次元が違う。ユースケースに分けて議論を進めるべきである。(ブロックチェーンでも)新しいものが出てくるとすぐ短絡的にいっしょくたにして考えているが、注意しなくてはならない。

(N氏)保険業における新技術(例えば Fintech)の取組みについて。銀行業が先行しているがむしろ保険証券業での応用が期待される。

(参考)「フィンテックの次のフロンティアは保険業界だ」;

<http://jp.techcrunch.com/2015/08/06/20150805insurance-is-the-next-frontier-for-fintech/>

新しい保険商品検討される場合、法律的に問題がないか妥当性があるかが議論になる。車の自動運転が普及した場合のリスクの評価と責任分担はどうなるか、最初に法律の定義ありきの話し。運転者、メーカー... それぞれの責任範囲が規定されていて、その上でリスク評価になる。保険証券のブロックチェーンへの記録、保険支払の自動審査など実用可能性はどうか? ネット上で自動でおこなわれF2Fのインターフェースがないということに対しいわゆる「保険の精神:相互扶助など」が担保されるのかの議論が必要であろう。Fintechの世界では、SNS 情報の収集と分析により申請者の信用を AI で評価する。ただし、このルールを決めるのも人間である!

●ロボットの台頭で消える職、20 年までに 500 万人分余りもーWEF調査

http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20160119-000000009-bloom_st-bus_all

http://www3.weforum.org/docs/Media/WEF_Future_of_Jobs_embargoed.pdf

日本の労働人口の 49%、人工知能・ロボットで代替可能に 10~20 年後 NRI 試算

<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1512/02/news111.html>

(S氏)20 年後も会社にいると思うが、今と仕事のあり方が全然変わるだろう。むしろ息子が社会人になる時代が心配である。今からそれに見合った教育とか子供の育て方が必要となる。

話しは変わるが、家庭でのお子さんに対するデジタルリテラシー教育(情報倫理教育)をどうするかを問題視している。現実にはFB、ラインなどSNSからみ的高校生のトラブルの話しが身の回りに起きている。仕事を含め、社会生活がF2Fでないコミュニケーションで会話し判断し決められている。そのメリットを生かし課題をどう解決するのか? 学校の先生はあまり教えていない、しかしこのままでもいけない。今は漠然とした心配だけである、ネット上に誰だか分からない人と会話する世界。マイナンバーとか絶対に教えてはいけないと教育している。ネット上の人がみんないい人だったら問題ないのですが...

4. 本日のテーマ

前回に引き続きITBO研究会の総括を議論。

冒頭に伊藤副座長から、「私家版ITBOの2年間：振り返りと今思う事」の発表をいただく。

(伊藤副座長)

われわれが研究会でドローンの話題を取り上げたあと官邸に不時着した事件があった。世間では、ドローンが危険物であるため規制すべきであるとの議論であった。しかし我々はドローンの主目的は軍事用であると認識する。ドローンが殺人道具として使われるため、サイバー攻撃が非常に重要な課題になる。皮肉なことに軍事用ドローンの迎撃、乗っ取り、防御の技術が相当な勢いで進み、これをベースとして民間に転用されだろうと予測する。国のサイバーセキュリティ基本法、NISCの強化、企業のセキュリティ取組み強化など具体的かつ急速な動きがあった。

世代間によるセキュリティ意識の違いが存在する。(個人的な印象であるが)10~20代の若い世代ではSNSに個人情報公開することへの抵抗感がない。いわゆる情報リテラシー、セキュリティリテラシーが無い状態でスマホを使い続けている。これはメディアにも責任があると思う。10年前から気が付いていたのにもっと警鐘を鳴らすべきであった。

清少納言「枕草子」にある、「いとおかし」の意味はとても趣がある(興味深い)ではなくて‘ヤバイ’ということ。是非、誰もがスマホを持って歩いているときにWifiの電波が顔に当たって痛い！と感じてほしい。

以下メンバーからのコメント。()は発言者イニシャル

- a. 日本で絵文字というものがある。ポケベルで簡略記号を使っていたころからの伝統である。必要に迫られて出てきたものであるが、これを否定するのではなく日本独特の文化として認め活用すべきである。一方で、ここ最近デジタルリテラシー教育を受けない。昔はテレビで流れる情報もある意味規制があった。リテラシー教育をする間もなくIT技術が進んできてしまったことが原因である。昔は親がちゃんと教えていた。今はそれができないから学校できちんと教育してもらいたい。教師もいじめなどの対応すべき課題が山積みで対応できない。現在は大学でしかリスク工学として教えていない。(O)
- b. リテラシーとは何かと言った場合、グローバルで共通普遍ではなく国、地方、あるいは個人で異なってくる。あるいはもしグローバル共通のものがあつたとした場合、それは非常に小さい細いものである。さらに共通の価値観を明文化したとき業界団体でも異議を唱える人が出てくる。逆に最先端にいる人達が勝手にリテラシーを作って発表し、それをまともに受けて影響されている人がいる。リテラシー教育を受けている人でも結構チグハグなことをやっている。セキュリティリテラシー教育といった場合、どのように伝えていくか非常に難しいと感じる。(N)
- c. 今から30年後の仕事はこれまでの30年間以上に変わっているだろう。日本の社会は明治維新で大きく変わり、戦争を経験してまた大きく変わってきた。日本人の適用能力はすごい！もし、30年後に40%の仕事がなくなっても新たにまた仕事が生まれるだろう。AIは人間の満足を満たすように判断し行動するが、これは今まで蓄積した情報からあるルールで結論を出すだけであろう。未来の人間は今までの概念にとらわれず情報から全く新しい価値基準で判断する。そこに人間の創造力の価値が生まれる。AIではこれは出来ない。(K)
- d. 今やCloudからCrowdへの流れに変化している。ネット上でのマッチングビジネスが利益を

上げている。出会い系サイトでなく婚活サイトがブームである。出会えない出会い系サイトでなく出会える婚活サイトである。昔はディスコで出会えることができたが今やサイバー空間に移った。

仮想通貨での取引ができるようになると重要であるが、年収からの投資比率制限(月収の3割までとか)をかけるべきである。仮想通貨が主流になると資本主義が崩壊して勝者(拝金主義者)がずっと勝ち続けるのではない。民主主義であって民主主義でない。多数決の時代でもない。クラウドファンディング＝少額案件という訳でもない。高額案件もある。あとちょっとすると、残るものと無くなるものが分かれてくるだろう。(T)

- e. コンティニューすること＝変化し続けることだ。話題もBCの世界に捕らわれず広い議論ができてよかった。(I)
- f. 30年後の世界を想像する。人それぞれが持つ財産(金銭や不動産、自家発電された電力または知的財産)を活用することによって価値が生まれる社会になる。そのためには、人それぞれが所有する財産が明確で誰にでもわかるしくみ(ジェネラルレジャー)。価値を生む財産の活用方法(投資、賃借、パテント料...)が定義されているしくみ(スマートコントラクト)。価値創造の行為が行われた結果その代価が支払われるしくみ(スマート決済)が必要となる。将来に価値創造を行うのは人のほか、AIやロボット、IoTが進出し人と置き代わっていく。人が働いた人月によって代償を得ることのほか、人に帰属する財産(広義の、一般に知的所有財産と呼ばれるナレッジアセットの細分化が行われる)が転用されることによって、手数料、賃貸借量、利子等の価値が支払われる世界になる。(O)

5. 次回ITBO研究会

	開催日	時 間	場 所
	3月8日(火)	16:30-18:30	BCAO 東京オフィス

関西地区から参加される方は、会議通話を用意しますので事前にご連絡ください。

6. ITBO研究会会員(敬称 略)

No.		氏 名	参加	所属
1	座長	大塚 純一	○	-
2	副座長	伊藤 高信	○	FUN Inc
3	副座長	関山 雄介		大成建設株式会社
4		岡 伸幸	○	ソフトバンク株式会社
5		海田 雅人		東京共同会計事務所
6		加藤 誠		株式会社日立コンサルティング
7		近藤 隆一	○	-
8		安齊 隆正		株式会社富士通エフサス
9		西出 三輝	○	損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社
10		野原 英則	○	京セラ株式会社
11		宮島 正孝		セイコーエプソン株式会社

12		山口 孝一		株式会社インターネットイニシアティブ
13		吉川 明人		NECネクサソリューションズ株式会社
14		木村 信弥		株式会社 ディー・オー・エス
15		後藤 富雄		パレイキャンパスジャパン
16		小尾 一介		Octave
17		岩崎 慎司		株式会社富士通総研
18		齊藤 公男		株式会社電通ワークス
19		佐々木志津香	○	パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社

上記のほか、露木様(ホーキングジャパン)が参加されました。

さらに、伊藤(嘉浩)様(キングフィッシュ)、日下様(住友電気工業)、斎藤様(IIJ)、小友様(富士通エフサス)、飯田様(江崎グリコ)、徳永様が ML にて参加されています。

(以上)